

第2回委員会で頂いた主な御意見の趣旨と 重点的に都市計画上の方策を講じるべきエリア

《都市格の向上により高まった都心部の熱を受け止める新たな拠点の形成》

- 効果的に都心の熱を受け止めるには、まずは京都駅に近いエリアから熱を広げ、その延長で竹田やらくなん進都といったエリアまで伸ばしていき、さらにその参み出しによって周辺エリアにも効果を波及させていくことができれば良い。
- 京都駅南は歴史に培われた京都駅の北側に隣接しているという特性をいかし、世界に開かれたオープンな場所に育ってほしい。新たな核ができればそこから広がっていく。
- 京都駅西部は、市場やKRPもあることから、アグリテックやフードテックなど食に関する分野を核とするなどにより、その強みを伸ばしていくべき。

➡ エリア① 京都駅周辺（南部・西部）
エリア② らくなん進都、竹田駅周辺

京都都市圏の
新たなコア

《京都の未来を支える若い世代に選ばれる居住環境の創出》

- 東部は幹線沿いを中心に既存住宅のエリアをどう作り直していけるかを考えることが大事。そのため、機能誘導だけではなく、良い環境を生み出すための誘導策が必要。
- 東部におけるウォークアブル空間の形成を考えるうえでは、それを駅近の幹線だけで目指すのか、それ以外にも広げていくのかといった視点が必要。
- 西京極、西大路など市街地西部の工業地域において住宅立地が多く見られる。最近では住宅性能も上がってきており、都市計画上のルールを整えることができれば、住と工の適切な共存の在り方も見出せるのではないかと。

➡ エリア③ 外環状線沿道（山科～六地蔵駅間）
エリア④ 西部工業地域（西院・西大路・西京極駅周辺）

《隣接市町の都市開発や将来的な都市基盤整備との連動による 一体的・連続的なまちの形成》

- 市境地域では高さや床面積をしっかりと確保すべき。量を伸ばすことはポテンシャルにつながる。そのうえで、景観にも配慮しながら住環境を整えていくべき。
- 南部（久御山町）や西部（桂川・向日町駅周辺）で都市開発やインフラ整備が進んできており、元気のある近隣市町の開発の勢いを借りながらでも取組を進めていくべき。
- 淀は三川合流のハザードを踏まえ、中長期的なスパンで考えていく方が良いかもしれないが、隣接市町の勢いを借りながらまちづくりを考える視点も必要。

➡ エリア⑤ 市境エリア（向日町・桂川・洛西口駅周辺、淀駅周辺）

【本日の論点】各エリアの都市計画上の課題と対応の方向性

《検討の視点》

- 駅等の各地域の拠点において、魅力や利便性は十分か？
- 過去に整備した都市基盤の効果が十分に発揮できているか？
- 現行の都市計画規制（用途地域、容積率、高さ規制等）が各地域の特性やポテンシャルに見合ったものとなっているか？

